

2 里山林整備モデル事業

1) 春日井市松本町 地内

(1) 事業地の概要

面積(ha)	0.2ha
森林概要	<p>当該森林は春日井市域の中央部、学校法人中部大学の敷地内にある森林で、市街地周辺に残る孤立林である。尾張東部丘陵と市街地の境界線上にあり、丘陵地と市街地の生態系ネットワークの結接点といえる。</p> <p>ここはかつて、荒廃地であったが、その後森林が回復した二次林で、コナラ、アカマツ、ヒサカキなどの樹種が見られる。また、林縁下部に湧水があり、トウカイコモウセンゴケ（この地域にのみ分布する固有種）が生育しており、アカネズミ等の小型動物も生息するなど、特徴的な生態系が存在する。</p> <p>中部大学の校舎建設が進められる中で、この森林は「単なる傾斜地」としか認識されず、大きな注目を集めないまま現在に至っていた。立ち入る人も少なく、林床近くにはヒサカキ等が密生し、暗い林となっていた。</p>
所有形態	中部大学

(2) 工事等の概要

調査費（円）及び工期	303,450 円 平成 20 年 9 月 5 日～平成 20 年 10 月 27 日			
工事費（円）及び工期	1,239,000 円 平成 21 年 1 月 30 日～平成 21 年 3 月 16 日			
工事費単価（円/ha）	6,195,000 円/ha			
工事費の内訳（工種）及び比率	除伐等 (0.2ha)	193,284 円 (15.6%)	防護柵工 (58.8m)	338,247 円 (27.3%)
	作業歩道 (46m)	464,625 円 (37.5%)		
	階段工 (85 組)	242,844 円 (19.6%)		

(3) 整備方針及び利活用状況

整備方針	都市近郊に残された里山林（孤立林）について、生物の多様性の評価、生物・環境のモニタリング等、里山に関する大学の調査研究に役立つフィールドとして活用するため、大学関係者の意見を聞いて、整備を行った。
利活用状況	<p>○利活用の現状</p> <p>このモデル事業の実施をきっかけに、中部大学内部で里山に注目が集まり、関係する研究室でそれぞれ里山に関するテーマの研究が始まった。モデル事業の区域は現在、学生実習や卒業論文作成のフィールドとして活用されている。</p> <p>○今後の利活用の計画</p> <p>中部大学は全学をあげて「持続可能な開発のための教育」「キャンパス・エコ・ミュージアム（森林見本園・森林学習）」の取り組みを進めており、このモデル事業の施工地も、その一環として、産官学連携の多様な主体による里山林管理のモデルづくりや、動植物のモニタリング等の研究が行われることになっている。</p> <p>また、現代教育学部（保育士養成）により、モデル事業地を幼児の自然体験の学習の場として利用する構想もある。</p> <p>○その他</p> <p>この森林整備の状況と研究の成果等の情報は、大学の方針で積極的に外部に発信することとしている。整備の過程は映像等で記録が取りまとめられており、研究の経過報告等も随時機会を設けて、学内外で展示・発表されることになっている。</p> <p>H21.3.5には中部大学の主催で、「あいち森と緑づくり事業（里山林の保全活用）」をテーマにシンポジウムが開催され、関係の研究機関や企業（大学の共同研究相手）、行政関係者、森林ボランティア団体など200名余りが参加し、都市近郊の里山林の保全活用について、意見交換などが行われた。</p>

2) 田原市加治町奥恩中 地内

(1) 事業地の概要

面積	2.64(ha)
森林概要	田原市の中心から南西へ約 2.4km に位置し、衣笠山、滝頭山、藤尾山を構成する山塊の最南部の裾野部にある。周辺には県立渥美農業高校や田原市立南部小学校、市営緑ヶ丘住宅や住宅地があり、市民にとって身近で貴重な里山林を形成している。主な樹種はコナラやスダジイで、長期間手入れがされておらず、ウバメガシやヒサカキが密生し、暗い林となっていた。
所有形態	加治区自治会

(2) 工事等の概要

調査測量費 (円) 及び工期	948,150 円 平成 20 年 9 月 2 日～平成 20 年 10 月 24 日			
工事費 (円) 及び工期	2,604,000 円 平成 20 年 12 月 23 日～平成 21 年 3 月 17 日			
工事費単価 (円/ha)	986,364 円/ha			
工事費の内訳 (工種) 及び比率	除伐 (2.38ha)	1,018,164 円 (39.1%)	編柵工 (100m)	492,156 円 (18.9%)
	作業歩道 (527.6m)	773,388 円 (29.7%)	その他	
	階段工 (40 組)	320,292 円 (12.3%)		

(3) 整備方針及び利活用状況

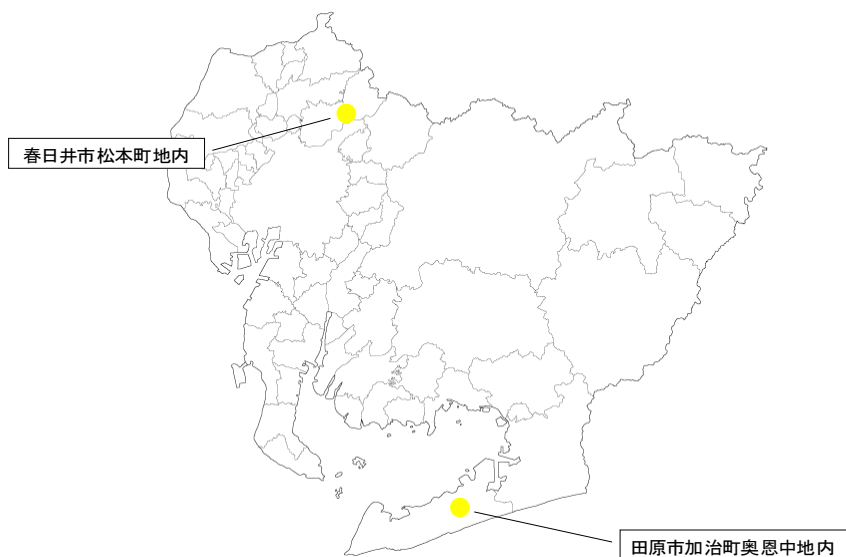
整備方針	常緑広葉樹優占となっている林内で除伐を実施し、本数密度を低減することにより、林内環境の閉塞性を解消し、透視性の確保、動植物の生息環境改善を図ると共に、事業後の保全整備活動及び利活用に向けた路網の整備を行う。
利活用状況	森林所有者である加治区自治会は、住民有志で結成した加治区里山保全の会「山遊里」を中心として、所有林のうちスギ・ヒノキ人工林エリアについて整備を進めてきた。広葉樹林エリアについては長期間の放置により、整備着手が困難であったが、当事業の実施を機に、コナラ・ヤマザクラ等地域の植生を活かした親しみのある森林として、継続的な整備を計画している。また、整備に伴い発生する木材を使ったシイタケ等林産物の生産体験といった利活用についても計画している。

3) 成果等

○里山林は整備内容により、事業費が大きく変動した。

- ・地域のニーズに対応した整備内容となるため、その箇所に応じた予算調整が必要となる。

実施箇所位置図



施工前

里山林モデル箇所
(春日井市松本町)

施工後





施工前

里山林モデル箇所
(春日井市松本町)

施工後



施工前

里山林モデル箇所
(春日井市松本町)

施工後





施工前

里山林モデル箇所
(春日井市松本町)

施工後



看板の施工状況

里山林モデル箇所
(春日井市松本町)

作業歩道の施工状況





階段の施工状況

里山林モデル箇所
(春日井市松本町)

作業歩道(木道)の施工状況



防護柵工の施工状況

里山林モデル箇所
(春日井市松本町)

柵工の施工状況



里山林モデル箇所
(田原市加治町奥恩中)

施工前



施工後



施工前



里山林モデル箇所
(田原市加治町奥恩中)

施工後



施工前



里山林モデル箇所
(田原市加治町奥恩中)

施工後



作業歩道の施工状況



階段の施工状況



里山林モデル箇所
(田原市加治町奥恩中)

編柵工の施工状況

